

1. 単元名 動物園でできること【評論】読むこと ア

2. 単元について

(1) 単元の目標

- 「筆者の文章の書き進め方を評価する」言語活動を通して、文章全体と部分の関係に注意しながら、主張と例示の関係を捉え、筆者の主張を読み取ることができる。

(2) 評価規準

- 文章全体と部分との関係や、筆者の主張と例示との関係に着目し、自分なりに考えをもって文章を読もうとしている。【国語への関心・意欲・態度】
- 文章全体と部分との関係に注意しながら、筆者の主張と例示との関係を捉え、主張について理解を深めている。【C読むことア】
- 文章に含まれている情報を整理したり、情報と情報との関係について理解したりしている。【言語についての知識・理解・技能】

(3) 指導計画（全6時間予定 本時は5時間目）

過程(時間)	主な学習活動	単元構想の意図, 指導方針等
つかむ(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教材文と出合い, 学習に興味や関心をもつ。</li> <li>・単元の課題を捉え, 学習の見通しをもつ。</li> </ul>	<p><b>言語活動「筆者の文章の書き進め方を評価する」</b></p> <p>本単元では, 文章の構成や例示, 表現の工夫等に着目し, 自分なりの考えをもって読み進める。</p> <p>&lt;つかむ過程&gt;映像や写真等を提示し, 教材文への興味・関心を高めさせる。通読し筆者の主張を見付け, 初読時の内容理解のあいまいさや難しさ等を自覚させ, 必要感のある言語活動につなげたり, 学習の見通しをもたせたりする。また, 学習のゴールをイメージできるようなモデルを提示する。</p>
追究する(4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を確認する。</li> <li>・序論の内容を中心に読み取り, 文章全体の中での役割等について考える。(1)</li> <li>・筆者の主張を支える3つの例示の内容を「楽しみの場」「学びの場」「展示の工夫」という視点で表にまとめ, 動物園の取組の内容を捉える。(2)</li> <li>・3つの例示の何が, どのように筆者の主張を支えているのか, どのように効果的であるかなどについて, 自分なりの読みを明確にし伝え合う。</li> </ul> <p>(3), (4) 本時</p>	<p>&lt;追究する過程&gt;第1時では文章全体の大まかな構成を押さえ, 文章全体の中で段落の果たす役割や説得力・効果等について読者としてどのように捉えるかを考えさせる。第2時では主張を支える3つの例示の内容を捉える。さらに第3時(個の学習中心)～第4時(グループ・全体の学習中心)で例示と主張の関係を考えながら読み, その効果や妥当性, 記述から伝わる筆者の思いについて考えを伝え合う。また, 例示の効果を実感的に捉え, 自分の言葉で説明できるようにする。</p> <p>&lt;まとめる過程&gt;では, 前時までに読み取ったことを振り返り, 筆者の文章の書き進め方について評価する。その際には, 「文章構成」「例示」「表現の工夫」(書きぶり)等の視点を与え, 自分なりの読みを文章にまとめられるようにする。さらに, このような文章の読み方が今後の授業や日常生活等でどのように活用できるか具体的にイメージさせる。また, 自分の成長や変容を自覚したり, 今後の学習への意欲につなげたりできるようにする。</p>
まとめ(1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の文章の書き進め方について評価する。</li> <li>・単元全体の振り返りをする。</li> </ul>	

### 3. 本時の学習

#### (1) 本時の目標

例示の効果についての考えを交流することにより、例示と筆者の主張との関係について理解を深めることができる。

#### (2) 準備：【生徒】教科書・ワークシート・国語ファイル

【教師】教科書・ワークシート（拡大掲示用）・動物の写真・実物投影機・付箋

#### (3) 展開

過程	主な学習活動	指導上の留意点及び支援
つかむ (5分)	1. 前時までに学んだことを想起する。 ・単元全体における本時の位置付けを確認する。	・前時までの学習と本時の学習とのつながり（＝単位時間のつながり）を意識させる。 ・身に付けたい力や、本時の学習の意義を確認する。
追究する (35分)	2. 本時のめあてをつかむ。 <b>めあて：例示から伝わることやその効果について交流し、例示と筆者の主張との関係を捉えよう。</b>	・既習の教材を使い、本時のゴールのモデルを提示する。 ・自分の読みと友達の読みを比較し、違った視点や考えを知ることが大切であり、1つの考えに集約するものではないことを伝える。 ・例示がどのように主張を支えているのか、どのようなことが伝わるのかなど、自分なりの読みを確認させ、グループ交流の準備をする。
	3. 前時に書いたメモを基に自分なりの読みをグループで交流する。	・筆者の主張の中心になる「楽しみの場」と「学びの場」との両立「野生動物～幸せに生きる道」との関わりを具体的に捉え、友達に発表できるように促す。 ・対話的な交流の場になるように、質問や共感、言い換え、付け加え等をさせる。 ・友達の読み方（感じ方）等をメモし、発表前より自分の考えが広がったり、より明確になったりしている点を意識できるようにする。
	4. 全体場で発表する。	・ワークシートを実物投影機で映しながら発表させ、視覚的に捉えながら考えを共有する。 ・例示ごとの発表だけでなく、3つの例示の関わり等に触れている生徒は意図的に指名する。 ・グループでの交流による気づきや深まったことを踏まえて発表するよう促す。 ・自分の読みと友達の考えを比較しメモを取るなどして、主体的に発表を聞くように促す。 <b>※私はこう読んだ／～という記述・表現から筆者の…という思いが伝わり、筆者の主張につながる／例示を示すことの効果がある／例示の順番にも効果があるのではないか など</b>
まとめる (10分)	5. 本時の学習のまとめや振り返りをする。  (次時について予告する。)	・分かったことや課題等についてまとめ、単元の課題解決に近付いていることを自覚できるようにする。 ・本時の学びや次時に生かしたいこと、意気込み等を自分の言葉でまとめ振り返らせる。

現れてほしい姿

#### 【評価項目】

○おおむね満足：例示から伝わることやその効果について自分の考えを伝え、例示と筆者の主張との関係を捉えている。

◎十分満足：例示から伝わることやその効果について自分の考えを伝えたり、友達の考えを取り入れたりし、例示と筆者の主張との関係を捉えるとともに、自分の変容を自覚している。

(観点：読むこと 評価方法：観察・ワークシート)

まず初めは、**オランウータン**の展示である。私たちが飼育するボルネオオランウータンは、東南アジアに位置するボルネオ島の熱帯雨林に生息している。樹上生活に適した腕と手は強い力を持ち、特にオスのてのひらと指は、まるでサッカーのキーパーグローブのように大きく、たくましい。森の木々の高さは六〇メートルにもなるが、オランウータンたちが主に生活しているのは地上から一〇〜二〇メートルの場所である。それでも、高さ二〇メートルというと、五〜七階建てのビルに相当する。そんな高さをもとめせず、彼らは木々の間を移動しているのだ。従来の展示施設では天井の高さが限られているため、そうしたオランウータンの野生下での姿を見ることは不可能だった。そこで、屋外に高さ一七メートルのタワーを二本建てて、その間をロープとレールでつなぐことにした。彼らがそのロープを伝って悠々と空中を移動するシーンは圧巻だ。目撃した来園者からは「すごい」という感嘆の声があがる。

そのダイナミックな野生本来の姿の前で、飼育係がオランウータンの身体的特徴や生態を解説する。そのうえで、オランウータンに迫る危機的状況について話をし、環境問題に関心をもってもらおう。「すごい」という感動を与えてくれた、その行動をするための森林が失われつつあり、そのことが彼らの生息を脅かしていることを知ってもらおう。そういう学びの場を考えたのだ。

ところで、私たちの動物園では、担当する動物の解説を飼育係が自ら行うというスタイルをとっている。日夜、その動物とつき合っている者ならではの発見や理解があり、担当の飼育係であれば、それを直接伝えることができるという発想だ。しかし、動物園の裏方の仕事を務める飼育係にとって、来園者の前に出て話をするというのは、実はかなり大変なことなのだ。ともすると単調な解説になったり、演説のようになってしまったり。動物たちの魅力に助けてもらおうとはいえ、その場にいる人々の関心を引き寄せ、楽しんでもらうための工夫は必要だ。例えば、私は旅先で出会った大道芸人の話術を取り入れたこともあった。一人一人が個性や経験を生かしながら、楽しい「学びの場」づくりを目指して、試行錯誤を続けているところである。

次に紹介するのは、私たちの動物園の冬の風物詩ともいえる「**ペンギン**の散歩」である。私たちは四種類のペンギンを飼育しており、そのうちキングペンギンが園内を集団で「散歩」する。野生下のキングペンギンは、陸上では繁殖地に大きな群れ（コロニー）を作り、そこから海へ狩りに出かけていく。コロニーは海岸から数百メートル、ときには数キロメートル離れた場所に作られる。そのため、キングペンギンたちが狩りに出かけていくには、相応の距離を歩かなくてはならない。「ペンギンの散歩」は調教や訓練が必要なショーではなく、キングペンギンの習性に基づく野生下の行動を再現したものだ。日本人はペンギン好きな国民といわれている。アニメや広告のキャラクターになったり、さまざまなグッズになったりする機会も多い。動物園でもペンギンの展示施設には多くの人が集まり、「かわいい」という声があちこちからあがる。しかし、彼らは、黙々と陸上を歩き、シヤチやヒョウアザラシなどの天敵が待つ海中に潜って狩りをするという、たくましさをもった野生動物なのだ。一回の潜水時間は約五分、潜る深さは二〇〇メートルを超えるという。

筆者の主張

**野生動物の姿と行動にどんな人でも魅了されるにちがいない。その驚きと不思議に満ちあふれた感動や体験は、彼らのことをもっと知りたい、環境を守りたいという気持ちを引き起こし、動物園が「楽しみの場」であるとともに、豊かな「学びの場」となる可能性を広げてくれる。動物園で楽しみ学ぶことが、野生動物と私たちがこの地球上でともに幸せに生きる道をひらく力になる。**

一般に、人々が動物に向かって「かわいい」ということばを発するとき、その動物がたとえ大人であっても、どこか自分たち人間よりも幼いもの、か弱いものとして見えているところがあるように私には感じられる。かわいいと思うことは決して悪いことではないし、私にも**ペンギン**たちがかわいいと思えるときがある。けれども、そのすこさやたくましさを知ると、もはや、かわいいだけでは、彼らに対して申しわけない気持ちになるのだ。

自然の中で暮らすペンギンのたくましい姿にも思いをよせてほしいという願いから、私たちは、なんの脚色もせず、ただ彼らが歩く姿を見てもらう散歩を行っている。また、そのたくましさを感じ取ってもらうための一つのお手伝いとして、散歩前に彼らの野生下の様子を解説する時間を設けている。「ペンギンの散歩」には、たくさんの来園者が集まるので、どうしても解説が演説のようになってしまいがもどかしいが、そうしたペンギンたちの姿を、毎年多くの人が楽しみにしてくれている。

三つめの例として、私が飼育係を七年間務めてきた**エゾシカ**の展示を紹介したい。エゾシカは日本最大の草食獣であり、日本の四季に合わせた姿を見せる。春から夏にかけて、まさに鹿の子まだらの美しい夏毛に生え替わり、オスは角を落とし、メスは子を産む。秋を迎えると、オスは新たに立派な角を生やして恋の季節を迎え、メスをめぐる闘争を展開する。冬はエゾシカにとって厳しい季節ではあるが、真っ白な雪の大地に冬毛のエゾシカのコントラストが幻想的ですらある。そのような姿に、私は飽きることがなかった。そして、こんなにすばらしい野生の動物と、この国でともに生きているということを誇らしくさえ思ってきた。

だから、来園者の声の中でつらかったのは、「エゾシカなんて見飽きたよ」「憎たらしい」ということばだった。確かにエゾシカは、北海道では出会いの機会が多い野生動物で、むしろ、その増加が農業被害や衝突事故で問題になっている害獣でもある。被害を受けた人にとってみれば憎たらしくも見えるだろう。これが例えば、わが国においては動物園でしか見ることのできないジャイアントパンダであれば、来園者から「見飽きた」などという声は出ないだろう。けれども、どちらの動物も地球上の生物の豊かさを構成している一員であり、その点でエゾシカとジャイアントパンダに違いはない。

エゾシカは、ヒトにはとてもできないようなハイジャンプや崖登りをいとも簡単にやってのける、すばらしい能力をもった動物だ。そのときの姿は、しなやかで美しい。「パンダに負けないすごいことをみんなに見せてあげよう」と、私はエゾシカたちに心の中で声をかけ、岩山の上に登ってくるように餌の与え方を工夫したり、ハイジャンプができるように柵を設置したりして、その魅力を来園者に伝えようとしてきた。そして、彼らとともに生きていることの意味やその大切さについて紹介し続けてきた。

11月(霜月) 日( )

【めあて】

例示が筆者の主張をどのように支えているのかや、例示があることの効果等について本文にメモをして、自分がどのように読み取ったのかを確かめよう。

※学びのヒント

- ・ 例示のどの部分が主張と関わっているか。
- ・ その言葉や文があることで、どのような効果があるか。
- ・ その表現から筆者のどのような思いが伝わるか。それが主張をどのように支えているか。
- ・ 三つの例示の順番にも効果があるのか。
- ・ 何がわかるから効果があると言えるのか。
- ・ わかりやすさや説得力が不十分な点はないか。 など

【振り返り】

めあてが達成できたか・わかったこと・気付いたこと  
考えたこと・自分の変容・次への課題や意気込み

11月(霜月) 日( )

【めあて】

例示から伝わることやその効果などについて友達と考えを交流し、例示と筆者の主張との関係を捉えよう。

※交流のポイント

- ・ 書いたメモに言葉を付け加えながら考えを伝える。
- ・ ワークシートを指し示しながら伝える。
- ・ 友達の考えとの共通点や相違点について考えて聞く。  
(必要に応じてメモを書き込む・付箋に書いて貼る)
- ・ 相手意識をもって話したり聞いたりする。  
(投げかけ・質問・共感・言い換え・付け足し)

【振り返り】

めあてが達成できたか・わかったこと・気付いたこと  
考えたこと・自分の変容・次への課題や意気込み